令和８年度　第２回湯沢学園学校運営協議会　会議録

令和８年６月 22 日（月）15：00～16：30

会場　湯沢学園　会議室

１　開会のあいさつ

【会長】

神立地区の線路から交番まで熊の出没情報が出ている。子どもたちの登下校に気を付けていただきたい。

２　学園の取組状況

① 中学校

「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を柱とした取組を実施。具体的には小中共通で、授業開始数分間の「スタートラーニング」（基礎知識・計算問題）を実施している。基礎学力検査（NRT）等の結果から、学力向上に向けた教員一人一人の授業改善と生徒の主体性育成が必要。

生徒の幼い言動が見られるため TPO に応じた言動ができるように学活や道徳の授業を展開。担任の多くが経験年数１～２年のため、学級経営力も１つのポイントになると感じた。

生徒の就寝時刻の遅さが懸念されるため、保健委員会を中心に就寝時刻の管理、メディアコントロール、朝食の確実な摂取を推進。家庭の協力に向けたアナウンス方法を検討。

教職員のライフワークバランス推進に向けて超過勤務時間を月 45 時間以内に抑える意識付けを実施。ノー残業日の実施、出張からの直帰の推奨により前年より超過勤務時間は減少傾向にある。

② 小学校

今年度は、「つながりを深める」と「基礎学力の向上」をキーワードに設定。挨拶を中心としたつながり作りを推進。全校朝会や生活朝会での講話、玄関でのあいさつ運動（生徒会や有志も参加）を実施。修学旅行先や来客の方への挨拶の成果が見られる一方、強調月間後の継続が課題とされる。できない子を叱るのではなく、できる子を褒めて伸ばす方針。

低学年を中心に語彙力不足が課題。授業開始５分を使った言葉のトレーニングを実施。基礎学力をつけることで、自分の考えをもち、話し合える授業づくりを目指す。

③ こども園

体力づくりと異年齢交流（お散歩、リズム運動等）を保育の柱として実施。園児を呼び捨てにしないなど一人一人の人権を尊重する意識を職員間で共有する。

保小中の連携活動として、年長担任と小学校１年生担任の情報共有、花植えや交流会を実施。交流指導案を作成し、振り返りを行うことで、職員の異動があってもスムーズに連携が継続する仕組みづくりが課題。

安全対策として、熊の出没への警戒、水遊び・プール遊びの安全管理、保小中合同の引き渡し訓練等の継続が課題。

【意見】

○地域や学校において、言葉の伝えかたや相手を思いやる態度、人権感覚を育む学びに繋げてほしい

→普段の生活や道徳の時間を通じて人権感覚を高めていく必要があり、保護者との共同の検討も必要である。職員間でも共有していく。

３　報告

○春に地域宛てのアンケートを実施し、今年度の活動協力を依頼

○７月に実施の８年生職場体験に向けて、調整をしてきた。コーディネーターの尽力に

より協力事業を開拓・増強。
○５月から開始したクラブ活動では、児童の意見を反映し新たなクラブを設置。地域住民の生きがいや協働活動への理解の促進につながっている。
○７月から保護者、民生委員、育成指導員による見守り活動を開始予定。
○福祉フェスのダンスや文化部とのコラボ、ボランティア体験のレポート発表（夏休み中の課題として設定）を今年度も継続予定。

4　学校運営協議会・地域学校協働活動について
地域学校協働活動推進員による資料説明
別紙　これからの学校と地域　コミュニティスクールと地域学校協働活動、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進学校協働会の活動についてのとおり
○文部科学省の資料に基づき、コミュニティスクール（学校運営協議会）と地域学校協働活動の定義及び一体的推進の意義を説明。
○学校運営協議会における「熟議」の軸として、子どもの学び・生活の課題、安全見守り、育てたい子ども像、キャリア教育などを挙げ、子ども自身の意見を取り入れる手法も提案。

5　熟議
8 月 21 日に開催予定の「拡大学校運営協議会」に向けて、話し合うべき議題についてグループワークを実施し各班から発表が行われた。
【Ａグループ】
・四つの小学校が統合されたことで、地域ごとの祭りや催し物が減少し大人も子どもも集まりづらくなっている。学校を活用して、子どもも大人も集まることができる祭りやイベントを開催することで、新たなつながりを作り、子どもの社会性向上や情報交換のきっかけになるとよい。
【Ｂグループ】
・挨拶について、大きな声が出せなくても笑顔や会釈などコミュニケーションが返せるよう、家庭や地域で広めていく。湯沢の良さや自然、文化（さいのかみ、祭り、神楽等）を子どもたちに実感してもらうため、町の美化・緑化活動への参加や文化見学を学年や教科を精査して取り組む。
【C グループ】
・異年齢交流の推進。福祉フェスの企画側に学園を巻き込む。卒業生（高校生）を夏休みに招き高校生活について話してもらう機会を作る。８年生の職場体験後の発表会に学校運営協議会のメンバーや保護者を招いて意見をもらう。
【D グループ】
・コミュニケーションや自己表現が苦手な子どもたちについて、保護者、地域、学校でざっくばらんに話し合う場を作る。保護者が参加しやすいよう、硬すぎない話題（「宿題は必要か、不要か」「自主学習のあり方」など）を設定する。

6　その他
（１）次回の開催予定日時について
８月 21 日（金）　拡大学校運営協議会　14：00～16：00
会場：湯沢学園　図書室
参加：湯沢学園保護者、教職員、教育委員会、地域交流センター

7　閉会
あおぞら班遠足で地域コーディネーターと企業との顔の見える信頼関係の重要性を強調。「第三次湯沢町生涯学習推進プラン」の目標（地域の文化や歴史が子どもに伝わっていることへの満

足度を現在の 8.9%から 30%への向上）に触れ、地域の歴史や文化を学ぶ方法を本会で揉んでいきたい。